

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月4日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677500110
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム あいら
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町上名5324-2 (電話) 0994-58-5539
自己評価作成日	平成27年11月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年11月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「黒羽子地区で、春夏秋冬を感じながら共に楽しく過ごしましょう。」  
「美味しい物を美味しく食べて、楽しい時には一緒に笑い、悲しい気持ちを分け合えられるそんな家族を目指します。」  
この理念の下、利用者様の生活の質の向上や安心安全に暮らせるように取り組んでいます。  
季節を感じて頂ける様な行事を計画したり、旬の食材を利用した食事の提供などを行っています。行事への参加により、懐かしく思い出したり、楽しみや充実感を得られる様に支援しています。  
環境面では、老朽化の床を滑り止めつきフローリングに改修し、重度化による入浴困難者の為に個浴リフトの導入を行ったり、リクライニングチェアの導入をしました。又、清潔保持の為に全トイレに温水洗浄機能付き便座の導入を行いました。  
現在、2名の方の看取り支援を、上記のような環境整備を行いながら、訪問看護師、かかりつけ医、介護職、計画作成担当者、家族様と連携を図り、「最後までここで暮らしたい」と望まれる本人様・家族様の希望に添えるように支援しています。  
地域交流にも力を入れています。奉仕作業時の休憩所やお茶の提供、9月には4回目の夏祭りを開催し、地域の方々との交流の場となりました。いつでも認知症や困りごとの相談を受けられる様に関係性作りを行っています。

鹿屋市街地から車で20分程の自然環境に恵まれた閑静な集落に建てられているグループホームである。近くには初詣で有名な吾平山稜や大隅広域公園、物産館などがあり、ホーム周辺は四季を感じながらの散歩コースに最適な環境である。市街地からやや離れた地域ではあるがホームは孤立することなく日常的に野菜のおすそわけや介護相談などで地域住民との交流が行われており、地区の奉仕作業の際はホームをお茶の提供場所として利用してもらったり、ホームの夏祭りには地域の方々が踊りやカラオケなどの余興で参加して下さるなど地域に溶け込んだ運営がなされている。また、災害時はホームは地区の避難場所ともなっており、ホームの安全対策も近隣にヘルメットを配布して緊急連絡網にも登録がもらえるなど協力体制が築かれて良好な関係ができています。  
離職が少なく、働きやすい職場環境が整備されており半数以上の職員が3年以上勤務して働きながらレベルアップに向けた資格取得にも意欲的で現在、介護福祉士9名・ケアマネ3名・准看護師1名と知識と経験が豊富な職員が多数確保されている。  
重度化や終末期においてもかかりつけ医・協力医療機関・訪問看護ステーションとの連携や体制が確保されて本人・家族の希望に沿った看取り支援も行われている。  
管理者・職員は利用者の高齢化に伴い重度化は現実のものとして受け止め、常に利用者にとって最良のケアを模索してその人らしい生活が送れるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットに掲示していつでも確認し、実践に努めている。年度初めには、職員、運営委員の方々にも説明している。	地域との交流の重要性を理解した理念となっている。また、毎年理念とは別で年度の目標も立てている。理念は玄関、共有スペース、事務所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として日頃から積極的に挨拶を交わしたり、行事に参加したりしている。夏祭りを計画し、地域の方々との交流の場となって踊りの披露や楽しみになっている。	地域の奉仕作業の際にホームをお茶の提供場所として利用してもらったり、地域行事にも利用者が参加するなど地域との交流がなされている。また、ホームの夏祭りには地域の方々が気軽に踊りやカラオケの余興で参加してもらえるなど地域とは良好な関係が築かれている。緊急連絡網にも近隣の登録がもらえおり、非常時の協力体制も築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営委員会や地域行事の際に、グループホームや認知症について会話の中で発信している。相談事は随時、受け付けている事を案内している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3火曜日に会議を開催し、現状やアクシデント・外部評価報告・地域交流などについても話し合っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、町内会長・地区班長・婦人会長・各ユニット家族代表の参加が得られて定期的に開催している。消防訓練時に運営推進会議を開催することもあり、参加者から気づきや助言をもらうなど安全対策の話し合いもなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>メールでのやり取りや事故・検討報告書など速やかに情報提供を行っている。</p>	<p>市担当者とはメールや面談・電話などで連絡や相談、報告など行って協力関係を築いている。また、市主催の福祉事業にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の無いケアをモットーに身体拘束をしないケアを話し合いながら取り組んでいる。毎月のミーティングにて話し合っている。</p>	<p>「いかなる場合も身体拘束をしないケア」に取り組んでおり毎月ミーティングで検討会議を行っている。日中は玄関の施錠などせずに職員の見守りと連携で安全で自由な生活を支援している。重要事項説明書にもホームの方針が明記されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人勉強会や研修会に参加して高齢者虐待について学び、不適切なケアについても話し合い、不適切ケアの無い様に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会や研修会に参加して権利擁護について学んでいる。成年後見制度の利用はない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は家族、利用者に説明をしっかりと行い、納得して頂いている。改定時は文書の交付と説明を家族会等にて行い、同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や受診時など状態報告をしっかりと行い、意見要望など伺っている。家族会や面会後は一緒にお茶を飲んだりしてコミュニケーションを取る様にした。	重要事項説明書に第三者委員も明記して外部者に表せる機会を設けている。また、家族アンケート、日常の面会時、電話連絡時、家族会、運営推進会議等で家族からは意見や要望を聞き出すように努めている。出された意見・要望については職員全員で話し合って改善に導いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに運営規定や重要事項の説明を行い、年2回はそれぞれ自己評価を行い、面談を行い、事業所への意見要望を聞き、反映させている。	毎朝夕の申し送り、全員参加のミーティング等で意見交換や話し合いを行っている。また、職員は毎年今年度の目標を設定し、半年ごとに振り返りの機会を設けて質の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員自身の自己評価や管理者から見た職員の努力や実績を評価している。目的を各自設定して半年ごとに振り返っている。精神的、身体的負担の無い様に勤務調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回法人内での勉強会を行っている。自主参加や必須参加があり、また外部研修にも個人に合わせて参加させている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入して、研修会や他事業所との意見交換や困難事例について話し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用に際して、利用者様からしっかり聞き取りをして、思いを受けとめる様になっている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用に際して、家族からしっかり聞き取りをして、思いを受け止めるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>困っている事を伺い、必要としている支援を見極めてサービス内容の説明や相談窓口の紹介を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の気持ちや残存機能を見極め、出来る事を出来るだけして頂き、出来ないところを支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族に利用者の想いや日頃の様子を伝えたり、家族の想いを聞きながら一緒に支えあう様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方にボランティアに来て頂いたり、ドライブで地域の散歩をしたり、地域の店で買い物をしたりしている。	地域出身の利用者は地域行事に参加できるように支援している。また、一時帰宅や外泊、お墓参りなども家族の協力をもらいながら支援している。入居前からのかかりつけ医の受診も友人・知人と会える機会となっており楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人などの関係性を見極め、トラブルや孤立の無い様に支援している。又、お互いを思いやる気持ちを持って頂ける様に病気への理解をお願いしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移られた方へのお見舞いや様子伺いの訪問を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを言葉やしぐさ、表情など日々の関わりの中から探る様にして本人がどうしたいか、どのように暮らしたいかを本人主体に検討し、支援している。	何をするにも本人の意思確認をしてから行うように心がけている。会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情・言動・しぐさ・家族や関係者からの情報から本人本位に検討して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、本人、家族より聞き取りをして把握に努めている。他施設からの入所の際は、施設からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムやペースに合わせて過ごし方や有する力の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、本人の現状を把握した上で、課題やケアの在り方について介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、プランに反映している。	本人・家族の希望や思いを聞き身体状況や生活歴、職員の気づきや意見を反映した本人本位の介護計画となっている。毎月モニタリングを行って見直しの必要性を職員間で検討し、現状に即した介護計画を作成している。担当者会議に家族の出席も得られており、居室に介護計画書のファイルを備えて閲覧しやすいようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果や気づきなど個別に記録したり、朝夕の申し送りや連絡帳を活用し、情報共有したりして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、訪問看護師、協力医療機関と連携を図り、医療のサービスに繋いでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域婦人部、地域ボランティアの方との交流や中学生の福祉体験などを受け入れている。近くの公園や物産館、観光農園などを利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人。家族の希望に沿い、かかりつけ医の受診を行っている。受診困難となった際は訪問にて診察頂いている。訪問看護との連携で早めの対応が出来る。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医となっている。入居後、受診困難な状況になった際は在宅医療機関の訪問診療と訪問看護との連携により適切な対応が図られている。また、緊急時も協力医療機関とは24時間連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日の体調チェックで小さな気付きや変化を随時、訪問看護師に報告、相談して適切な受診に結び付けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中はこまめに足を運び、病状の把握や本人の安心を得るように努め、病院関係者との情報交換を行い、なるべく早く退院できる様に支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化や終末期の対応の指針について説明し同意を得ている。現在2名の方が看取り支援中である。かかりつけ医や訪問看護師、介護職、家族がしっかり情報共有し支援している。</p>	<p>契約時に重度化や終末期の対応指針によりホームの方針を説明して事前確認書を作成している。また、入居後も毎年家族の意思確認を行っている。これまでに本人・家族の希望に沿った看取り支援が行われており職員もホームの方針を共有して主治医・看護師・職員・家族がチームとなって取り組んでいる。市の消防署が行っている救命救急の講習を職員全員が受講している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年1回必ず緊急時の対応について学ぶ機会があり、全職員が訓練に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、総合消防訓練を行っている。そのうち1回は消防署立ち会いの下、地域の方にも参加して頂いている。非常食や飲料水を常備し、非常時に備えている。</p>	<p>年2回定期的な訓練と毎月機器の点検と通報の仕方を確認している。地域住民とは協力体制が話し合われておりヘルメットを配布して緊急連絡網にも登録されている。また、訓練後に運営推進会議を開催して参加者からの意見や気づきを今後の安全対策に活かしている。スプリンクラー、自動通報システムは設置済で備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者である事を念頭に置き、一人一人の聞こえや理解度に応じて、丁寧かつ尊敬語でプライバシーに配慮し声掛けを行っている。	生活歴や職歴などを念頭に置き、個々に応じた声かけやプライドを損なわないような対応に配慮している。接遇マナー・個人情報保護についての定期的な研修も受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定が出来る様に複数の選択肢を並べたり、表出できない方には表情や行動から読み取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかの1日の流れはあるが、一人一人の体調やペースに合わせた生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人一人の好みの物、清潔な物を着て頂いている。2か月に1回、訪問理容を利用して髪カットしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の料理当番者が、利用者と共に準備や盛り付け、御盆拭きなど行っている。準備の際、食材についての会話でコミュニケーションも図れている。	個々の力量に応じて出来ることは職員とともに行っている。食材の調理方法や味見、餅つき、そばうちなどアドバイスをもらうこともある。家族の協力のもと外食に出かけたり外出レクの際は外でお弁当を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスに気を配り、最低限の水分も摂って頂ける様にしている。ゼリー状栄養剤やとろみ剤使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。（口腔ティッシュ・ポリデント・舌ブラシ等）定期的にブラシ・コップの消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の方でもなるべくトイレで排泄できるように、随時トイレ誘導を行っている。清潔保持の為に全トイレを温水洗浄機能付き便座に交換した。	重度化している利用者も多いが、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。自立している利用者には維持できるようにトイレ誘導を行い、可能な限り下着で過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、食後の排便促しの為のトイレ誘導を行い、水分の摂取の少ない方には、なるべく摂って頂く様に好みの物を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の体調や希望に合わせて入浴をして頂いている。重度化により、浴槽に入れられない方の為にリフトを付け、入浴できるようにした。職員の負担軽減にもつながった。	基本は一日おきであるが個々の希望や身体状況に応じて清拭やシャワー浴など柔軟に支援している。重度化している利用者も安心して浴槽に入れるようにリフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調やペースに合わせて、休息して頂いている。安眠の為に毎日15分ほどの日光浴も行っている。又、夕方の体操も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録簿に処方薬事表を添付して、いつでも見られるようにしている。服薬時は誤薬の無い様に複数の職員で確認しあい行っている。処方変更時などは状態変化に注意する様に情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折、野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ、干し、御盆拭き、歌の披露などその方の力を借りて役割を持って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩、ドライブ時の近隣の散歩、コスモスや彼岸花、ミカン狩り、ぶどう狩りなど季節に合わせた外出の支援も行った。家族の協力で墓参りや外食を楽しまれた方もいた。	ホーム周辺は自然環境に恵まれており、天気のいい日などは周辺の散歩や庭先やウッドデッキでの外気浴などで四季を感じながら気分転換を図っている。また、外出が好きな利用者は日常の買い物や職員の所用に同行している。外出レクとして初詣、お弁当持参の果物刈り、季節の花見、地域行事見学なども楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持はされていない。使用される状態でない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも電話が出来る様に支援している。難聴の為、電話の聴き取りが出来ない方が多い。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木製の床で、劣化があったので滑り止めつきフローリングへ改修した。季節の花を植えたり、飾ったり、ベンチをあちこちに置いていつでも休憩できる様している。又、写真を飾り見られている。畳スペースでは慰問の方の舞台となったり、座位訓練の場となったりしている。</p>	<p>ホーム全体が木のぬくもりと床暖房の自然の暖かを感じられ、家庭的な共有空間である。リビングからはウッドデッキに直接出入りできるために閉塞感のない造りである。台所もオープンで手伝いやすく食事の準備の光景やにおいなどは生活感を与えてくれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>いつでもゆっくりと過ごせるように共有スペースに椅子・ソファを置いたりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に馴染みの物を持ち込んで家族写真などを飾ったりしている。日よけの為の簾やカーテンなど工夫したり、加湿器などを置いたりしている。	テレビ・タンス・お仏壇・布団・家族の写真やお気に入りの飾り物など持ち込まれて居心地よく過ごせるように配慮されている。床暖房のために冬でも自然の暖かさで快適に過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に大きな赤い矢印で示したり、全体的にバリアフリーになっている。移動動線には手すりを付けて廊下には車椅子での通行がしやすい様に、あまり物を置かない様にしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない